

## 経営理念

県民のひとりひとりが芸術・文化に親しみ、うるおいと生きがいに満ちた生活を営むことができるような文化的環境づくりを目指します。

## 経営基本方針

- 1 県と一体となって文化振興施策を推進することにより、県行政を補完し、県民の教育、学術及び文化の振興の一翼を担います。
- 2 県民のニーズを的確に把握しながら、県民が多様で優れた芸術文化に親しむ機会や、参加、創造する機会を提供するとともに、歴史や民俗等に関する調査研究や学習機会の提供、埋蔵文化財の保護、活用、文化団体への活動支援等を通じて、県民が文化をより身近に感じ、また、交流することのできる文化的環境づくりに取り組みます。
- 3 事業団の各施設が持つ機能やノウハウを最大限に発揮し、本県における文化振興の拠点としての役割を果たします。
- 4 事業団を取り巻く経営環境の変化に的確に対応しながら、職員の意識改革や資質向上を図り、役職員一丸となって経営改善を推進し、健全かつ適切な運営を継続的に行っていきます。
- 5 指定管理者の指定を受けた各施設の適切な管理運営を図り、指定管理者としての使命を果たすとともに、サービス向上やコスト削減に主体的に取り組めます。

## 平成30年度事業計画（総括）

平成30年度においては、上記の経営理念・経営基本方針の下、各事業所等における各種の事業を展開するとともに、東日本大震災からの復興支援に係る事業を継続して行うほか、若者や後継者育成の活動支援などに取り組みます。

また、復興道路整備等に伴う埋蔵文化財の発掘調査面積が大幅に減少する見通しであることから、引き続き運営体制の見直しや経営の改善に取り組めます。各事業所等における主な事業は、次のとおりです。

### 1 県民会館事業

県民会館の耐震補強等の工事が6月25日まで予定され、施設の使用期間が制限されることとなるため、施設の利用について調整し、事業を計画した。

自主事業では、「ぎ・CLASSIC 2019」や「いわてJAZZ 2018」などの参画型・育成型事業や震災復興関連事業を継続して行うとともに、多

様な県民の要望に応えるため、鑑賞型事業としてミュージカル「ジャージー・ボーイズ」、竹生企画第3弾「火星の二人」や舞台「大人のけんかが終わるまで」などの公演を実施する。

また、「ロシア国立ワガノワ・バレエ・アカデミー」の「くるみ割り人形」を実施し、より多くの県民に舞台芸術などの鑑賞の場を提供する。

## 2 埋蔵文化財センター事業

東日本大震災からの復興関連調査が終了に向かい、調査面積が大きく減少し、復興事業（復興道路整備等）に伴う調査では8遺跡 15,342㎡の発掘調査を実施する。

また、通常事業では国営岩手山麓農業水利事業に伴う継続調査や、新規に北上川緊急治水対策事業関連調査など、10遺跡 31,226㎡を調査し、発掘調査合計で18遺跡 46,568㎡を調査する。

普及・広報事業では継続事業として埋蔵文化財展や遺跡報告会等を開催し、文化財保護思想の普及に努めるとともに、東日本大震災復興関連調査展を行う。

なお、本県の復興関連調査が概ね終了することから、公益財団法人福島県文化振興財団へ職員を派遣し復興関連調査の支援を行う。

## 3 博物館事業

展示活動においては、企画展として「魅力的な八本脚の生きもの・クモ」を、テーマ展として「祈りに見る動物たち」、5年間分の「新収蔵資料展」、「岩手の往来～未来へのみちしるべ～(仮)」を開催し、地域展として「未来への約束ー語りはじめた気仙のたからものー」を開催するほか、随時常設展展示替え、トピック展の展示を実施する。

また、教育普及活動として各種講演会や講座、セミナー、観察会、体験教室などのほか、職員を派遣して行う「県博出前講座」や「学習利用」、「教材資料貸出」など学校教育との連携推進に取り組む。

自主事業においては、恒例の「博物館まつり」、「事業団プレゼンツ(移動展)」のほか、ゴールデンウィークに親子で楽しめる「ミニSL」「Nゲージ鉄道模型」や、秋には「ヒストリックカー&クラシックカーミーティングin博物館」を開催するとともに、「ミュージアムコンサート」や普段見ることのできない夜の博物館の魅力を知ってもらう「ナイトミュージアム」などを実施する。

このほか、継続事業として、東日本大震災で被災した資料の安定化処理及び抜本修復を、被災機関からの依頼に基づき行うほか、学校教育課程の中で活用可能な文化財のデジタル教材化を図る「岩手デジタルミュージアム構築事業」に取り組む。

## 4 美術館事業

展示関連の事業としては、所蔵作品による常設展（第1期～第4期）とともに、報道機関との実行委員会方式により「うるわしき美人画の世界ー木原文庫

よりー」及び「ますむらひろし展」の2つを開催するほか、「ユニマット・コレクション-フランス近代美術と珠玉のラリック展」、「ブルーノ・ムナリー展」、「“うつわ”ドラマティック展」など合わせて6つの企画展を開催し、国内外の優れた美術作品や岩手県内又は本県ゆかりの作家による作品の鑑賞機会を県民に提供していく。

また、教育普及活動事業として、展示関連の作品解説や講座・ワークショップ、美術普及関連の「オープスタジオ」や「アートデオヤコ」、「館長講座」や「学芸員講座」に加え、館員が各学校等の希望に沿って美術をより身近に学ぶための「出前授業」を積極的に展開するなど、県民が美術を楽しむことのできる多様な機会の提供に努める。

このほか、自主事業として、「美術館まつり」、「ナイトミュージアム」、「ファミリータイム」、「ミュージアムコンサート」等のイベント開催などを通じて、美術館の利用促進につなげていく。

## 5 総務部事業

県民の文化活動が活発に行われるように、文化団体等の活動を奨励・援助するため、引き続き、文化振興基金助成事業を実施する。なお、平成30年度から新規に「障がい者芸術活動支援事業」を特別事業として実施する。

文化庁委託事業である「文化芸術による子供の育成事業(芸術家の派遣事業)」は、東日本大震災復興支援対応として引き続き実施する。

また、芸術文化団体と連携して第71回岩手芸術祭を開催し、文化振興の盛り上げを図るほか、事業団が実施する事業等の周知と事業団のイメージアップを図ることを目的に、マスコミの活用等による広報活動を展開するとともに、事業団の各事業所等の合同事業(事業団プレゼンツ)を開催する。

この他、事業団の経営改善を進めるため、公益目的事業の統合を目指すほか、平成29年度に設置した「岩手県文化振興事業団人材育成検討委員会」の検討を基に、事業団の人材育成方針を策定し、研修等の育成事業を行う。